

AI 時代における技術職員の使命とは何か？ ～改めて「実践（臨床・現場）知のアスリート」の妥当性を考える。

古海弘康

情報・システム研究機構 国立遺伝学研究所 技術課

1.はじめに

本研究会が 2019 年に分子研で開催された際、『技術職員の「実践知」について考える』とのテーマで発表した。当時は、『技術職員のワークモチベーションのカギこそ「実践知」であり、技術職員は「実践知のアスリート」でありたい』と主張した。

今や生成 AI が席卷する時代となり、改めて技術職員の使命を考えたく発表に至った。果たして、「実践（臨床・現場）知のアスリート」は現在の技術職員のブランディングとして妥当なのだろうか？

2. AI との付き合い方

私は将棋愛好家で、プロ棋士やアマ選手と交流する機会が多い（発起者として活動し、居住地の三島市で初の将棋タイトル戦が 2026 年 10 月に開催決定！）。AI の社会実装の先駆として将棋（囲碁も）は位置づけられる。それは、人間（最強棋士）が AI（アルファ○○）に勝てないことが白日のもとにさらされた以後は、棋士が AI を思考・研究の補助にするという共存関係を築いていったからだ。

史上最強棋士の藤井聡太は、2025 年の名人戦防衛後、朝日新聞の記者に次のように語っている。『将棋は局面における唯一解を探すゲームではないです。AI が示す指し手や評価は「正確」とは言えますが「正解」ではないので、他の手は「誤り」ではないんです。準備段階では AI を使って考えますが、戦えるかどうかは主観によって判断します。評価値が低いから採用しない、ということはありません。』

藤井氏が最強である所以は、極限まで自分の脳みそで考え続け鍛え抜いた「情熱」と「脳力」であり、AI はあくまでも「補助的」手段なのだ。つまり、AI に「頼る」のではなく「活用」するのである。

3. 「一次情報」の価値

我々技術職員の AI との付き合い方はどうあるべきだろうか？我々技術職員が AI に負けないことは何だろうか？「一次情報」即ち、実践（臨床・現場）知の価値はどうだろうか？以下 Keywords も参考に。。。

4.意見交換の助けとなる Keywords

[ゼロからイチ]、[量と質]、[暗黙知]、[決断]、[判断]、[定義]、[平均値]、[評価値]、[IQ と EQ]、[フィジカル]、、、

5.おわりに

ポスター前等でみなさまとご意見を交わす機会を楽しみにしています。その結果、再発見した内容を右の Web サイトに載せるかもしれませんのでご承知下さい。<https://sites.google.com/view/showaoyajikacho/>

謝辞

遺伝研技術課、全国の技術職員の方々には多くの学びを得て感謝致します。将棋の勝又七段、(株)リガーレの権社長、遺伝研の近藤所長には、AI との付き合いを考える貴重なご教示を頂き感謝致します。